

宝塚音楽学校のユニセフ募金活動 「すみれ募金」のこころ

宝塚音楽学校



宝塚音楽学校の生徒たちは、予科・本科の2年間、声楽や舞踊、演劇など宝塚歌劇の舞台に立つための必要な技能や知識、あらゆる基礎を学び、舞台人としての意識を高めていきます。また、「清く 正しく 美しく」の校訓に基づいて、礼儀作法やマナーの学習も重視しており、生徒たちの社会人としての素養や思いやりを育むことにも力を入れています。

こうした教育の一環として、1964年から50年にわたり「すみれ募金」という社会貢献活動を実施し、2010年からはユニセフ募金活動を行っています。

初めてのユニセフ活動は、2010年11月に実施しました。生徒40名、職員11名が阪急宝塚駅前に募金箱を持って並び、世界の子どもたちのため、ユニセフへの協力を呼びかけました。

2014年、5年目を迎えた「すみれ募金」によるユニセフ募金活動は、5月25日に宝塚大劇場正面ゲート内で行われました。9時30分から11時10分まで、春に音楽学校に入学したばかりの予科生（第102期生）と音楽学校2年目の本科生（第101期生）に分かれて行いました。予科生は公の場へ出るのは初めての機会



募金を受ける102期予科生



102期予科生



募金を受ける101期本科生

ということで、緊張した面持ちも見られましたが、地域の皆様や観劇に訪れた多くの方々が温かく見守る中、生徒たちは声を合わせて、大きな声で「世界の子どもたちのためにご協力をお願いします」と繰り返し呼び掛けっていました。

この日は、まだ5月とはいえ、日差しが強く夏のような暑さでしたが、生徒たちは終始笑顔で募金活動を続けました。募金をしてくださった方には、ひとりひとりの目を見ながら、御礼の言葉とともに、花の種をプレゼントしました。本科生代表はインタビューの中で「持っていた募金箱がだんだん重くなり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。ひとりでも多くの方に幸せになっていただきたいです」と話していました。

「すみれ募金」の活動は生徒の社会貢献に対する意識を強める良い機会となっています。また、世界の子どもたちが安全で衛生的な生活を送り、教育を受けられるようにするにはどうしたらよいかを考え、自分たちに何ができるだろうかと真剣に思案することによって、生徒たちの視野が広がり、思いやりや感謝の気持ちを育むことにもつながっています。



101期本科生



101期本科生代表インタビュー



101期本科生集合写真